

ホソツツコメツキダマシの形態について

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区本月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (elater2003elater@yahoo.co.jp)

Notes on Morphological Structure of *Melanoscythron ohmomoï* Muona (Coleoptera, Eucnemidae) from Japan

Wataru SUZUKI

ホソツツコメツキダマシ *Melanoscythron ohmomoï* Muona は、福島県の四時川溪谷で 1982 年 4 月 29 日に大桃定洋博士が採集した 2 雄個体に基づいて、命名記載された種である (Muona, 1988)。本種はその後長い間記録がなかったが、最近、福島からは遠く離れたラオスにも生息していることが明らかにされた (Otto, 2017)。国内では、「*Melanoscythron ohmomoï* s. sp.?

」と疑問符をつけた沖縄産の雄個体が紹介されているが (畑山, 2017)、その形態については詳しく触れられていない。
筆者は、本種のタイプ標本を調査するために、原記載に保管が明記された現在につくばにある国立科学博物館を訪ねたが、標本を見いだすことができなかった。そこで、本種の記載者であるフィンランドの Muona 博士にお尋ねしたところ、現在も手元に保管していることがわかり、標本を借用することができた。本小文では、本種のホロタイプ標本の写真を紹介すると共に、これまで触れられていなかった形質を含め、本種を識別するのに必要な形態の概要を報告したい。なお、本種の和名については、これまでなかったが、畑山 (2017) により、ホソツツコメツキダマシと新称が与えられているので、ここではそれに従った。

本文を書くに当たり、ホソツツコメツキダマシのホロタイプ標本の所在についてご教示頂き、標本をお送りいただいたヘルシンキ大学の Jyrki Muona 博士、つくばの国立科学博物館の所蔵標本についての調査を許された同博物館動物研究部の野村周平博士、手元のコレクションをお調べいただいた焼津市の杉本可能氏に厚くお礼申し上げる。

今回 Muona 博士よりお借りした本種のホロタイプは、Muona 博士からのお申し出により、併せてお送りいただいたボルネオ産の *Agasticerus kobayashii* Muona, 1991 のホロタイプ標本と共に、今後はつくばの国立科学博物館で保管される。

Melanoscythron Fleutiaux, 1926

ホソツツコメツキダマシ属

Melanoscythron Fleutiaux, 1926: 34 (key), 69; Fleutiaux, 1931: 74; Fleutiaux, 1947: 15 (key), 33; Muona, 1988: 17; Muona, 1993: 53; Otto, 2016: 291 (key), 301 (diagnosis). Type species: *Fornax denticornis* Fleutiaux, designated by Fleutiaux, 1947: 33.

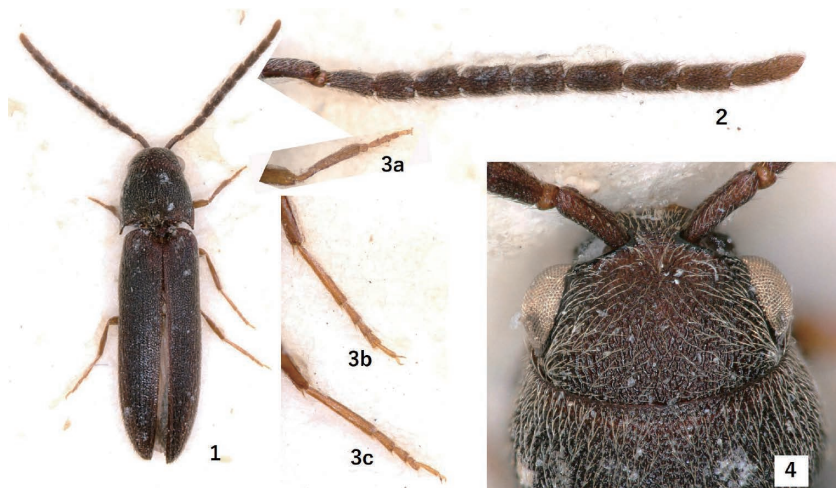
ホソツツコメツキダマシ属は、チャイロコメツキダマシ亜科 Macraulacinae のチャイロコメツキダマシ族 Macraulacini に所属する (Muona, 1988, 1993)。体は細長く、筒状に近い。触角は扁平で、3 節以降は両側が平行か、4 節から鋸歯状。上翅は先端手前まで会合し、それぞれの先端は丸まる (先端手前で顕著に開き、それぞれの先端が尖ることではない)。前胸腹側板側縁には触角溝を備えるが、内縁の境界の縁取りはやや不明瞭～明瞭。後胸基節板は基部近くで後方に著しく拡大し、外縁幅の 3～5 倍。雄の前脚跗節第 1 節には性櫛を備える。中・後附節背面には棘列を伴う。爪は単純。雄交尾器は、背・腹面がやや平圧され、中央片は単純で、側片には発達した二次側片を伴う。

本属の種は、これまでに *M. carinatus* Muona, 1988 (ジャワ島)、*M. decoratus* Fleutiaux, 1926 (ミンダナオ島)、*M. denticornis* (Fleutiaux, 1916) (ルソン島)、*M. monilicornis* Fleutiaux, 1931 (ラオス) そしてホソツツコメツキダマシ *M. ohmomoï* Muona, 1988 (日本、ラオス) の 5 種が知られているが、いずれの種も珍しく、原記載以降の記録は少ない。

Melanoscythron ohmomoï Muona, 1988

ホソツツコメツキダマシ (Figs. 1-8)

Melanoscythron ohmomoï Muona, 1988: 18 (in key), 20-21, figs. 3, 5, 7, 9, 11 & 14 (Japan: Fukushima Pref., Shitokigawa Glen); Otto, 2016: 302-303, figs. 122 (Laos: Bolikhamsai prov., Saiaombun zone); Hatayama, 2017: 226 (list).



Figs. 1–4. *Melanoscythron ohmomoï* Muona, Holotype, ♂. 1, dorsal habitus; 2, right antenna; 3, fore (a), middle (b) and hind (c) legs; 4, head.



Figs. 5–8. *Melanoscythron ohmomoï* Muona, Holotype, ♂. 5, abdomen; 6 & 7, male genitalia; 8, apical portion of left elytron.

検視標本：♂ (Holotype), “Shitokigawa Glen/ Fukushima Pref./29. IV. 1982/S. Ohmomo”; “Holotype/ *Melanoscythron ohmomoï* n. sp./Muona des. 1987”. (国立科学博物館所蔵).

形態.

雄. 体長：5.2 mm；幅：1.3 mm. 体は細長く、円筒形に近い。体色は暗褐色だが、脚および腹部は明るい茶色 (Figs. 1 & 5). 頭部は、中央部で均等に強く盛り上がるが、前頭部はわずかに凹む。前頭前縁中央の横隆線および頭頂中央の縦隆線は認められない (Fig. 4). 表面は明瞭な網目状 (Fig. 4). 複眼は大きく、その直径は触角第3節の長さと同じか、わずかに長い。触角 (Fig. 2) は細長く、先

端節は上翅の基半部に届く。第1節および3～8節には明瞭な縦線を伴う。第2節は幅広で、先端を除き無毛で光沢があるが、3～11節は扁平状で、毛で被われ、光沢は鈍い。第3節は4節よりわずかに長い (1.2: 1.0). 前胸背板はやや幅広く (1.2: 1.0), 中央よりわずかに後方で強く盛り上がる。側縁は縁取られ、狭く上反する。後角は薄く、板状に近く、先端手前で浅く窪む。表面は顆粒で被われ、光沢は鈍い。小楯板はやや大きく、逆三角形。上翅は細長く、基部幅の3倍、両側はほぼ並行で、条線は弱く印する。点刻は普通であるが、翅端部では著しく深く、大きくなり、一見蜂の巣状 (Fig. 8). 腹部 (Fig. 5) は細長く、第2, 3, 4節の中央長

は等しい。腹部第5節は前節中央長の1.9倍。前脚附節は脛節より短く、第1節は残りの節の合計より明らかに短い (Fig. 3a)。中・後脚附節は著しく長く、それぞれの脛節より遙かに長く、第1節は2節以降の合計よりはわずかに短い (Fig. 3b & c)。

雄交尾器：1.93 mm；幅：0.3 mm。細長く、幅の約6倍。中央片は、先端手前でいったん針のように狭くなるが、先端では再び広がる。側片は先端手前に二次側片を伴う。一次側片の先端部は長四角形で、幅の約3.3倍、外縁突起は認められるが、とても短い (Figs. 6 & 7)。

雌。日本では未知。Otto (2017) によるラオス産の再記載および、図示された雌個体を見る限り、外部形態の雌雄差はほとんどないようである。

分布：日本 (福島県)、ラオス。

備考。前段でも触れたが、畑山 (2017) は、沖縄産 [沖縄島?] の雄と思われる個体に対し、「*Melanoscythron ohmomoi* s. sp.?

かになっていることは、本州 (福島県) とインドシナ半島のラオスに分布し、その中間に位置する沖縄 [沖縄島?] には、近縁の未知種と思われるものが生息しているということだけである。今後、各地から新たな情報がもたらされることを期待したい。

引用文献

- Fleutiaux, E., 1926. Catalogue raisonné des Melasidae des îles Philippines. Annales de la Société Entomologique de France, 95 (1926): 29–90.
- Fleutiaux, E., 1931. Contributions à faune de l'Indochine française. Bulletin de la Société Entomologique de France, 36: 73–75.
- Fleutiaux, E., 1947. Révision des Eucnemides (Coléoptères) de l'Indochine française. Notes d'Entomologie chinoise, Musée Heude, 11: 1–68.
- 畑山武一郎, 2018. 日本産コメツキダマシ科概説 1. 日本産コメツキダマシ科全リストおよびチャイロコメツキダマシ族までの検索表. KORASANA, (88): 221–228, pls. 1–2.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, supplement, 44: 1–133.
- Muona, J., 1988. A review of the genus *Melanoscythron* Fleutiaux (Coleoptera, Eucnemidae), with descriptions of new species. Elytra, Tokyo, 18: 17–22.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae Eschscholtz, 1829. In: Löbl, L. & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81–87. Apollo Books, Stenstrup.
- Otto, R. L., 2016. The false click beetles (Coleoptera: Eucnemidae) of Laos. Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey, 35: 181–427.

(2020年3月30日受領, 2020年5月20日受理)

【短報】東京都初記録を含むアオゴミムシ類3種の戦前の採集例

筆者らは国立科学博物館 (つくば市) および北海道大学総合博物館 (札幌市) において標本調査を行った結果、東京都から採集された以下のアオゴミムシ類の標本を確認しているので記録する。

1. ヒトツメアオゴミムシ *Callistoides deliciolus* (Bates, 1873)

1♂, Fuchū, Tokyo, 12. VI. 1939 (皇紀による記載で「2599」とラベルにはあった), A. Habu; 1♂, Edogawa, Tokyo, 25. V. 1938, Habu, 以上, 北海道大学総合博物館所蔵。

これまで東京都からは、土生和申コレクション目録で示された東京稲城から1939年に採集された1

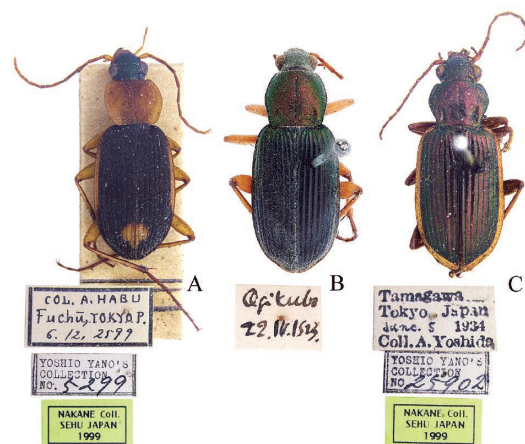


図1. 東京都産の幻のアオゴミムシ類。A, ヒトツメアオゴミムシ (標本の下にそのラベルを示した。以下、同様); B, アオヘリアオゴミムシ; C, ツヤキベリアオゴミムシ。